

ります。ひとつその辺を大きな経済が動くわけですから、そういうふうなことを背景に、私は取り組まないかん時期が来たと、市長、ちょっとその答弁だけを、市長の答弁ほしいと思います。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 外国人観光客の関係でございますけれども、まず外国人観光客の前に、今現在のこの医療圏別のこの感染症の確保病床数。

対馬市は29床でございますけれども、これを人口別に、その医療圏ごとの人口で割ったときに、対馬は950人に対して1床というようなことで一番上になっております。

長崎が3,000人に1床、それとか県央や佐世保も3,000人に1床というようなことで、対馬のほうの確保床はかなりほかの医療圏に比べて有利なほうになっておりますし、また療養床のほうも、県下のこの医療圏の中では壱岐がちょっと高いんですけども、その他においては上から3番目ぐらいになっているというようなことで、今の現状として捉えてほしいと思います。ただ、これがいいとか悪いとかじゃなくて、今の現状ではこういう状況でございますということで、御理解をしていただきたいと思ひますし、また今後こういう形で観光客が増えてきた際は、何らかの対応策が必要であろうというふうにも考えております。

以上であります。

○議員（16番 大浦 孝司君） 議長、以上で終わります。

○議長（初村 久藏君） これで、大浦孝司君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。

再開は11時10分からといたします。

午前10時52分休憩

午前11時08分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

報告します。坂本充弘君より早退の届出があつております。

引き続き、市政一般質問を行います。8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 新政会の船越洋一でございます。さきに通告をしておりました3点について、市長並びに教育長に質問をいたします。

まず、1点目の市制20周年記念事業についてであります。市が誕生して令和6年に節目の20年を迎えるわけですが、市として何か記念事業を計画されると思ひますが、私は韓国との交流600年祭を市制20周年記念事業と併せて、韓国も含めて事業の検討ができないか市長にお伺いをいたします。

次に、お船江跡地についてであります。市長と教育長にお伺いをいたします。国指定に向けての申請手続を進めていると思いますが、お船江広場の市有地に歴史的な景観の石屋根でのトイレの設置ができないか市長にお伺いをいたします。

次に、現在、国指定に向けて様々な資料の整理が進められると思いますが、現状と今後の予定、指定の範囲、申請時期等を教育長にお伺いをいたします。

次に、厳原漁協前の防風ネットの設置について伺います。この件は県事業ではありますが厳原港内の漁業権の放棄をしたときからの懸案事項で、振興局にも申請はしているものの、いまだに解決されていないため、市から強く振興局に要望できないかお伺いをいたします。

この3点でございます。よろしく申し上げます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 船越議員の質問にお答えいたします。

初めに、市制20周年記念事業において韓国との交流600年祭を実施する考えはないかとの御質問でございます。

令和6年3月1日に市制施行20周年を迎えるにあたり、これまでの対馬市の歩みを振り返り、さらなる飛躍に向けて歩み出すきっかけの年とするため、市制施行20周年記念事業を実施することとしております。

令和4年2月9日に市職員で構成する市制施行20周年記念事業検討委員会を立ち上げ、これまで2回開催し、事業実施スケジュールの検討や一般公募によるキャッチフレーズの募集等を行っているところであります。

市制施行20周年記念事業における特別事業や冠事業については、今後、各部局からの提案や市民、市民活動団体等の意見を踏まえながら組み立てていきたいと考えております。

議員、御質問の韓国との交流600年祭を記念事業に併せて実施できないかということですが、歴史、経済等を含め、この対馬がこれまでの繁栄と発展を遂げてきたことは、韓国との交流が非常に重要であったというふうに思っており、これからの対馬にとっても重要な位置づけであるというふうに考えております。

しかしながら、現在は日韓関係が厳しい状況であること、コロナ感染症対策において、対馬、韓国間の往来が途絶えていることを考えますと、議員がおっしゃるような韓国との大きな交流イベントは、現段階では非常に厳しいのではないかと考えておりますけれども、先ほどの大浦議員への答弁の中で、このことについては徐々に緩和がなされているということで、今後、いろいろと研究を重ねていかなければならないというふうに思っております。

まずは国際航路の再開実現に向けた取組を行いまして、民間交流の活発化を踏まえた中で市民等を含めた韓国との交流機運の高まりを第一に醸成していくことが必要であるというふうに考え

ております。そのような動きが進んだ中で合併20周年記念事業として韓国との交流イベントを実施することは可能かと思えます。

議員がおっしゃられる韓国との交流600年祭というイベントは、どの自治体でもできるものではないという認識を私も持っております。まずは、市民、市民活動団体等の意見を踏まえた中で合併記念事業の事業内容を考えていきたいと思っております。

次に、お船江広場の市有地に歴史的景観であります石屋根のトイレを設置できないかという御質問でございますが、現段階では対馬藩お船江跡総合保全検討委員会の中で、その保存活用について協議しており、まだ具体的な整備の方向性を示すには至っておりません。

対馬藩お船江跡は昭和44年に長崎県史跡に指定されましたが、お船江広場と呼ばれる場所は指定に含まれていません。今の指定範囲や広場のほとんどが個人の所有地であります。

市といたしましては、現在、未指定の広場を新たに加えた範囲で国指定を目指し、その後に国庫補助を利用してお船江跡の土地を購入し、総合保全検討委員会で整備について検討していく予定であります。

お船江跡周辺のトイレの必要性については十分に理解しておりますが、近年の調査で広場の敷地内から当時の遺構が発見されました。その付近にトイレを設置することは今後の国指定の障害になるおそれもあり、それは避けたいと考えているところでございます。

これらのことから、お船江跡の周辺のトイレについては指定地以外への設置も視野に入れながら、委員会の指導、助言のもと景観に合ったものを検討してまいります。

2点目の国指定に向けた進捗状況に関する質問につきましては、この後、教育委員会の所管でありますので教育長のほうから答弁いたします。

次に、厳原町漁業協同組合前の防風ネットの設置についてでございますが、厳原港の整備につきましては、平成9年に改定されました厳原港湾計画を軸に変更等を重ねながら県事業として整備がなされてまいりました。

厳原港の土地、施設の利用としましては、厳原地区と久田地区に分けられ、臨港地区の指定も大まかに厳原地区が商港区、御質問の久田地区が漁港区に分区指定され、漁業者の多くが久田地区を利用している状況です。

議員、御承知のとおり、当地区は漁業関連施設も含め県事業により整備を進めていただいております。令和4年度におきましては久田地区で防風フェンスを2か所設計中であると伺っております。

所管する対馬振興局建設部河港課におかれましては、毎年、利用可能な複数の事業により予算措置に取り組み、整備促進に努めていただいているところでありますので、今後も県と協議、連携し、厳原港の整備促進に努めてまいります。

議員、御質問の防風柵については設計がもう入ったということですので、もうしばらくお待ちになっていただきたいというふうに思います。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 船越議員の御質問にお答えいたします。

お船江跡の国指定に向けた現状と今後の予定等についてでございますが、対馬藩お船江跡を国指定にするには様々な準備項目、調査が必要となっております。

現在、国への意見の具申に必須となる宗家関係資料調査、発掘調査報告書の作成に取りかかっていますが、文化財課としての他の業務にも携わっており、当初の計画よりも遅れている状況でございます。

今後の予定としましては、これらの調査とその報告書の完成に向けて取り組んでまいります。また、意見書の具申前に文化庁との事前協議が必要であるため、協議に必要な最低限の資料作成も行ってまいります。

国指定の範囲につきましては、先ほど市長も答弁されましたが、現在の県史跡範囲に対岸の広場と呼ばれる場所、旧居住施設エリアなどを一部追加して具申をする予定です。

意見具申の日程については、昨年の6月定例会でお伝えしたとおり、令和5年7月の提出を目指しておりました。しかしながら、調査報告書、意見具申書の作成に想定以上に時間を要しており、実際の指定の時期は現時点でまだ明確にお伝えする段階に至っておりません。

進捗に時間はかかっていますが、確実に前に進めるよう鋭意努力しているところでございます。御理解をいただきますようお願いいたします。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 市長、この20周年記念事業を検討中ということですが、コンセプトはどういうことでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） コンセプトと申しますのは、やはり市民の皆様が合併20周年を一堂に祝い、そして、また今後の対馬市の発展を願うものというふうに考えております。

その中で、キャッチフレーズとか、また冠等については、市民団体、またいろんなところから要望等が出てくるものというふうに考えております。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） それでは、市長は、現在、対馬の経済状況をどのように分析していますか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） やはり今現在は、特に第1次産業につきましては資源の枯渇がかなり危惧されていると、そして、また観光事業等につきましては韓国との交流関係が一時このような形で止まっているということで、その観光交流人口も減ってきている、そういうことで景気ということにつきましては、やはり少しずつ停滞はしているのかなと、それに併せて人口減少もさらに進んでいるのではないかなというふうには分析しております。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） それでは、今、市長が言われました景気が低迷しているということなんですけど、今後の対馬を考えたときに、この経済をどういうふうに立て直していこうと考えますか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） やはり第1次産業等につきましては、いろいろな施策等をしておりますけども、対馬の資源は確かに枯渇はしてきてはおりますけども、その資源を有効に活用する、ブランド化に持っていくというようなことで、同じ製品であっても単価アップ等で漁業者、農業者等の所得を上げていくことが重要ではないかというふうに思っておりますし、今後、移住関係におきましても、今、少しずつは増えてきております。そういう中で、特に都市部からの移住者につきましては、ネット環境をかなり重視されておりますので、対馬市といたしましてもネット環境の改善によりまして、そういった人口減少対策にも寄与するのかなというふうに思っております。

そういうことで、今後もいろいろな改善策、そして対応策について耳を傾けながら努めてまいりたいというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 私が思いますに、現在の対馬の状況を見ますと基幹産業である漁業は、燃油の高騰、気候変動等もあり低迷が続いております。国との関係で、新型コロナ等の関係もあり韓国人の観光客というのが皆無の状況でありますね、先ほど大浦議員も言いましたが、そのために経済は大変大きく落ち込んでおります。

韓国人が41万人来たときには、先ほどの部長の話では91億円ぐらいの経済効果があったということなんです。大変これは大きなものなんです。これを大事にしないといけないと私は思います。

今は新型コロナの問題で国内からの観光客というのもいろいろ制約がありまして、なかなか思うようには入ってこない。しかし、それを待っていてもどうにもできませんが、まずは対馬は韓国との交流をしっかりとやって、信頼関係を築いて、そこの中で韓国人観光客に来ていただくとい

う政策はどうしても取らなければならないと思うんです。そのためにはどうしなければいけないかなということなんです。

私が600年祭をやったらどうかというのは、根底にはそれがあるんです。いかにして韓国人観光客を引っ張り込むかということについては、やはり根底からしっかり見直すべきだと思うんですよ。

釜山に対馬事務所ありますね、これは国際交流協会に年間1,700万円ぐらいを補助してやっていた。しかし、これでは韓国の行政関係というのは信頼しませんよ。民間がその事務所を預かって運用しているわけですから、しかし国と国との、行政と行政との立場というのを、信頼関係をしっかり築いていく必要が私はあると思う。今までみたいな、やはり旧態依然としたような韓国との交流の在り方というのはしっかり見直すべきだと私は思います。

そうしないことには、旧態依然として黙っていても来てくれるというぐらいの気持ちで受入れだけをやっておけばいいという問題じゃない。この際、そこら辺も含めて韓国との交流をしっかりとしたもの築き上げる必要があると、私はそう思いますが、市長はどう思いますか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私も韓国との交流については、今後も旧態依然とした交流ではなくて、やはり前向きに進めていくべきだと、もうそれは議員と全く気持ちは一緒でございます。ただ、この中で韓国との今後の交流と20周年記念事業の中でやっていくのか、また別の事業でこの600年祭事業をやっていくのかということ、これは別に考えていかななくてはならないんじゃないかなというふうに思っております。と申しましても、やはり合併の20周年ですから、本当に市民の皆様がどういうふうに考えてあるのかといったことをまずこちらとしては先に拾い上げていく必要があるのかなというふうなことで、これまでも、今、職員間でも2回ほど会議等もっておりますが、今後また市民の皆様にも広く広げていながら、その600年祭の事業も決して外に出すわけではなくて一緒になって考えながら、今後、計画をしていければいいのかなというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 確かに言われるとおり対馬の市制20周年ですから、島民の方たちにしっかりそれを伝えて、皆さんのおかげでやっと20年経ちましたと、それをお祝いするというのが1つの大きな趣旨だろうと思うんです。しかし、私であればそういうことを1つのきっかけとして何かをやらないと対馬の発展はない、私はそう思います。

現状で、韓国人が来ないだけでこれだけ冷え込んでしまっているんです。これにはいろんな問題があります。国同士の徴用工、慰安婦の問題、こういうのもありますから、それを一概には言えません。

また、新型コロナウイルスの件もありますから、なかなか思ったようにはいきませんが、これも終結を見てくると思うんです。今、韓国の大統領も前のムン大統領は日本には大変厳しかったんだけど、今度のユン大統領は徴用工の問題は早期に解決したいという意気込みが見えますよね、そうすると、ある程度の時期にこれは解決してくるんじゃないかなと思います。やっぱりその時期を見計らっていくのは、しっかり我々も見ていないといけないんですが、それまでの間にしっかりと体制をつくるべきだと思います。

もう1つは、20周年記念をやる時期と市長の任期が重なってくると思うんです。それは市長、次の選挙がありますが、出るとは言えませんでしょうが気持ちをちょっと聞かせてください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 次の市長選挙まで、まだまだ約1年半程度ございます。そういう中で、今現在、私もどうしていくのかということまで決断もまだしておりませんし、今後、いろいろと皆様と相談もいたしながら、そのことについては決断をしていきたいというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 今の市長の間にこういう計画を練るわけですから、そうしますと任期のときにその計画も実行するようになってくると思うんです。そうすると、そのときに私はもう出馬しませんという無責任なことはできないと思う。市長がいるときに計画をつくって実行に移していくようにしているわけですから、その途中で私はもう出ませんからやめますと、そういう無責任なことはできない。そこら辺もしっかりと考えた中で取り組んでいただきたいと思います。

それから、ちょっと歴史を見てみますと、何で600年祭かということは、宗貞茂が筑前の守護代をして、それから佐賀に府を置いたのが1408年、貞茂は倭寇を鎮めて、その威が諸島に行き渡り、国家を光芒してよく群島を均斉し、辺境を侵すことを許さなかったのが朝鮮に認められた、それが朝鮮通交の始まりであると文献にはこう書いてある、それが1408年、再来年ですから2024年までとしますと616年になるんですね、徳川幕府が明治天皇に政権を返上したというのが1867年だと思います。そうしますと、1408年から1867年までになりますと、約460年、大政奉還するまでにかかっているんですね。

そういう歴史があり、また、その当時の対馬藩というのは韓国との交易をしなければ、対馬藩の財政は大変な時期だったんですね、国書を改ざんしてでも韓国との交易を図るべく、宗家は一生懸命、頑張ってそれをやってきた経緯がある。だから、先ほど市長も言いましたが、特に日本国内の中で対馬ほど韓国とのこれだけの交易があるところはないんです。これを全面的に出して日本全体にこれを売っていくという政策も私は必要であろうと思うんです。

だから、そういうことをやっていくには旧態依然としたやり方ではなしに、少し発想を変えて、1つ私が思うのは、これはちょっと飛躍しますが、副市長を2人制にする、それで韓国の対馬釜山事務所を民間から、直接、市の運営にすると、そこに2人制にした1人の副市長を常駐させる、それで釜山の行政と、やはりネームバリューがいるんですよ、というのは対馬釜山事務所の女性が副所長をしていますけど、その子が行くのと対馬は副市長を投入してきて、これだけの話をしていくということは対馬も力を入れているということにもなるはずなんです。

そこで、やっぱりパイプをしっかりとつくと、それにはやはり朝鮮通信使縁地連絡協議会ももう豊富な人脈を持っていますからね、そういう人たちも連携をしながら、どう進めていくかということをやっていく必要が私はあるんじゃないかなと、それだけ対馬も韓国との交流に対しては力を入れているということを見せる必要が私はあると思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） いろいろと本当に御意見をいただきましてありがたいというふうに思います。そのことにつきましては、私も釜山の事務所のほうにそういった形で置くということは全く考えておりませんでした。今後、このことにつきましては、いろいろと、そのことが実現可能かどうかも含めまして検討はさせていただきたいというふうに思います。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） やはりこういう時期ですから、景気が低迷していますので、同じようなことを旧態依然としてやっても発展性はないと、私はそう思います。だから、そこら辺もちょっと発想を転換して、それぐらいに対馬も韓国との交流については真剣に考えてナンバー2を送り込んできたというぐらいの気迫がないと向こうも信用しませんよ。雨森芳洲先生は誠信の交わりというのを言いましたよね、これは互いに欺かず争わず真実をもって交わるという、この教えをやはり今の時代にもこれは生かさなければいけないと思います。こういうことをやってこそ信頼関係が生まれて、構築できて、それで韓国との交流が深い絆に包まれていくと思いますから、よくそこら辺を考えていただきたい。先ほどの副市長の2人制、それぐらいの馬力をかけてやるぞっていうぐらいにちょっと考えていただきたいなと思います。そうしないと今の時代やっぱりなかなかそうはいきませんよ。

今、対馬釜山事務所の民間の方は前厳原町時代に国際交流員で来ていた方が、今、副所長でずっと長くいてくれるから中身は全部分かるんですよ、だから長く勤めていただいて大変ありがたいんですが、それをしっかりと生かしていかないといけない。市長、これは韓国との交流、それから観光客を引っ張ってくるにはどうしないといけないかというのは真剣に考える必要があると思います。

9 1億円の経済効果があるというのを先ほど部長からも聞きましたが、今、日本国内でいろん



な事業をやっていますけども、7億円、8億円の時代ですよ、韓国から来る観光客にすると経済効果は91億円あるというんですから、桁違い、それぐらいにメリットがあると、そういうところにはそういう力をつぎ込んで、まだよくなるようにしないといけない。

しかし、韓国人観光客が来ると今度はホテルがなくなります。日本人観光客が来たとき、これもまた問題が出てくると思いますが、しっかりそこら辺を見極めた中でどうやればいいのかということは、あなたの仕事なんです。私の仕事じゃないんですね。しっかりやってください。

次にいきます。お船江です。このお船江について、今、教育長からも市長からもお話がございました。私もあそこの経緯は、ある程度、頭の中に入っているつもりなんで、広場については先ほど市長が言われたように個人の所有ですから、なかなか思うようにはいかないと思いますが、国指定になりますといろんな要件があって、トイレや何かを造るときに申請手続とか許可とか、そこに立てたら駄目とか、そういう規制がかかるんじゃないかなという懸念があるんです。ですから、国指定になる前にそういうのを、市有地があそこにあるわけですから、造っておく必要があるのではないかなと私は思ってこの問題を提起しました。いかがでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かにこれが国の指定になりますと文化庁の指導が入りますので、いろんな面で難しい面が出てくるのではないかなというふうに思います。そういうことで、国指定になる前にそのような施設等を造っておけばいいじゃないかというような御意見でございますけども、ただ、このことにつきましては国のほうともいろいろ相談をしながら、国指定について進めてきておりますので、これをじゃあ国指定になる前にということをやりますと、むしろ今度はその国指定の方がかなり難しくなってくるのではないかなという危惧をしております。そういうことで、先ほども答弁いたしましたとおり、できましたら指定区域外のところで駐車場、そしてトイレがそこに造られるなら、それが私は一番いい判断になるのではないかなというふうに考えて、今回、このような答弁をさせていただいたところであります。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） そういうふうに都合のいいところはありません。指定区域外でそういうものを造ろうという、そういう場所はありません。おまけに指定区域外で造ると国指定になるときにいろんなことを言われるんじゃないかなという気持ちがある。もう1つは国指定にするとなかなか難しいんじゃないかという意見もあります。どちらなんですか、それじゃできませんよ。だから、そこら辺をしっかりと考えて指定区域外のところにそういうところを造ったって、遠く離れてそんなところまで誰も行きませんよ。そういうこともあるんですよ。だからそこら辺をしっかりと考えた中で、ぜひトイレを造ってください。いいですか、何か難しい顔していますね、にっこり笑って分かりましたって言ってくださいよ。そうしないと、やはりあそこに来る観光客

は橋の向こうでバスを止めます、トイレがそこら辺にありません、民間のところに行っても嫌われます、そうすると、せっかくお船江に歩いてきて、そこにトイレがあれば休憩できるわけですから、そういう観光客に対する配慮というのは、当然、対馬市として持つておかないといけないことです。ぜひこれは実現するようにお願いしておきます。

それから、教育長、先ほどの意見は聞きましたが、前教育長のときには令和5年ぐらいに申請するということでしたが、先ほどの話を聞きますと、いろんな物が出てきて調査をしないといけないということで、今、ちょっと遅れているみたいですが、学芸員が足りないんじゃないですか。1人辞められたんでしょう、補充はしているんですか。だから、そこら辺もあると思うんですが、やはりそういうところもしっかりとやっていただきたい。

1つは、いろんなところに文化財があるわけですが、しかしそこは雑草に覆われているんですよ。そこに文化財課の人間が草刈りに行くんですよ。ところが職員にしてみたら、我々は草刈りのために入ったんじゃないと、文化財を後世に残していくための研究をするために我々は入ってきているのに、草刈りに毎日追われてそれもできないというような状況もあろうかと思えます。

だから、市長、ここら辺は考えていただいて、そういう職員たちが本来の仕事ができるように、草刈りはその職員たちがするために雇っているんじゃないんですよ、そういうのは公費を出してもさせて、そしてそういう人間には本来の仕事させるようにちょっと考えてみてくださいよ、これは健全じゃないです。

今、市長にも言いましたが、教育長、そこら辺をよろしく文化財課のほうにも言っていただいて、草刈りは何とか公費を出して違うところからやるということで、市長、よろしく願いします。

それから、3点目の漁協前の防風ネットについては、平成13年ぐらいに私は巖原町議会におりまして、それで巖原町議会の中で阿須湾漁協と特別委員会をつくって交渉した経緯があります。あそこは対共16号と17号に分かれています。対共16号の方に阿須湾漁協の漁業権と行使権がある。17号の方は巖原町漁協ですから、補償金をいただいて行使権も漁業権も売却しましたから。ところが阿須湾の方が納得しないということで揉めたんです。それで対共16号の方を商業港とするわけですから、漁業権を放棄してもらわないと県にしてもそちらの工事ができないわけですから、だからそれで難航したんです。

我々は町議会で特別委員会をつくっていろいろやったけども、なかなか先に進みませんでした。それで、平成13年のときに、時の議長と阿須湾漁協の組合長と話しをしまして何とか折り合いをつける段取りをしました。そのときの支庁長が松尾徹也さんでした。巖原町の町長が淵上清でした。その2人で話をさせていただいて何とか阿須湾漁協と話ができたんです。それで、今の商港区になっているところは工事ができるようになったんです。

そのときに、県の方からは巖原に泊めている漁船は、全部、久田に持って行ってくださいという通達だったんです。だから、我々は久田のほうが漁港として認定されていると思ったんです。ところが、今現在、調べてみますと港湾区域です。農林水産部長、港湾区域は国交省ですよ、漁港は農林水産省ですよ、そうしますと省庁が違いますから、同じ湾の中に国交省と農林水産省とあるわけですから、なかなかやりにくい面があるかと思うんですが、久田の方は先ほど市長が言いましたように漁港として認定しているということであれば農林水産省なんです。国交省ではない。国交省ですか、ならば港湾区域です。港湾区域になっているはずなんです。漁港には認定していないんですから、だから、今、港湾区域に入っていますので、国交省のほうなんでね、だからそこら辺のことも含めた中でやりにくい面があるのかなと私は思いましたけども、省庁は違っていてもそれを何とかしてもらわないと困るわけですよ。

久田の湾の中にどれくらいの漁船がおるか分かりますか、大、小を合わせて60隻から70隻おりますよ。そして造船所もありますね。今、木材を搬出するのに奥の方でためていますよ。そこにも貨物船が入ってくる。そうすると、港湾区域の中でそういうのもありますが、防風ネットをやるのにどういうふうな仕掛けで持っていきかなんてですね、だからそこら辺は我々は専門家じゃないから分かりませんが、要は早くこれをやっていただくのが一番いい、今、事情を市長に話しましたので、だからそこら辺のことも含めて、巖原町も巖原町漁協も阿須湾漁協も重要港湾巖原港を整備していくのにみんなに協力をしてきたわけですから、そういうことをしっかり分かった中で防風ネットを早急に造るように言うてください。今、1か所、2か所、設計段階に入りましたと、二十何年経って1か所、2か所ですよ、あんまりですよ。ですから、今までの分を取り戻す意味で早くそれができるように、ぜひ市長のほうから県の方に言うていただきたいと思います。答弁をお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） ちょっと私が答弁の中で、この巖原港湾が巖原地区が商港区、久田地区が漁港区に分区されて指定されているということで、少しそこら辺の説明がまずかったかなと思いますけども、あくまで国交省の重要港湾巖原港の中での漁港区というような分区指定がされているというようなことでした。

それと、また久田地区におきまして、今、令和2年度の地元漁船として5か年の平均で64隻ぐらいになっている、まして外来漁船を含めると年間630隻ぐらいの漁船数になるということですので、もうその港湾の中でも漁港区としてもかなり重要な港になろうかというふうに私も思いますので、このことにつきましては、やっこの令和4年度で設計委託に入ったということですので、今後、ほかの防風柵についても早期に完成できますように県の方にも力強く要望をしまいたいというふうに思います。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 事情は市長もお分かりになったと思いますので、ぜひこれは早急に、この図面を見てみますと、今、5か所の申請がしてあるんですね。設計に入ったのは2か所ですよ、そうしますと1番と2番ですから、あとまだ3か所あるんです。これが完了しないとあそこは暴風雨に耐えられません。

阿須湾にしても曲のところにしてもみんな防風ネットはついているんですね、ところが二十何年経っても巖原港だけは防風ネットがない、こういうことはあり得ないことですよ。だから、そこら辺を強く強く言っていただいて、1か所、2か所ではなしに5か所が早急にできるように県と力強く協議をしていただくようお願いを申し上げまして質問を終わります。

○議長（初村 久藏君） これで、船越洋一君の質問は終わりました。

---

○議長（初村 久藏君） 以上で、本日予定しておりました市政一般質問は終わりました。

本日は、これで散会とします。お疲れさまでした。

午前11時58分散会

---